

杉並地域に関する現状・課題データ集
(改訂版)

追加資料

平成 25 年 12 月
東京都 都市整備局



防災

地域的な視点 地域危険度

■地震に関する地域危険度測定調査の沿革

都では、東京都震災対策条例（当時は震災予防条例）に基づき、昭和50年11月に第1回（区部）の地域危険度を公表し、その後、市街地の変化を表わす建物などの最新データや新たな知見を取入れ、概ね5年ごとに調査を行っています。

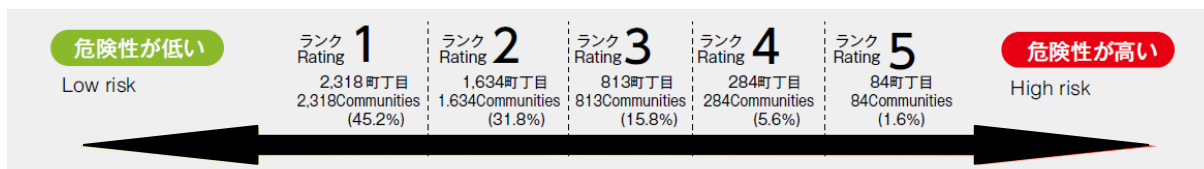
今回実施した第7回目の測定調査（平成25年9月）では、都内の市街化区域の5,133町丁目について、各地域における地震に関する危険性を、建物の倒壊及び火災について測定しました。

■地域危険度とは

本調査では、以下の危険性を町丁目ごとに測定しています。第7回調査から、災害時の避難や消火・救助活動のしやすさ（困難さ）を加味するため、「災害時活動困難度」（災害時の活動を支える道路等の基盤状況を評価する指標）を考慮した危険度の測定を始めました。（以下の危険性の関係は次ページ参照）

- 建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）
- 火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度（建物倒壊や延焼の危険性）
- 災害時活動困難度を考慮した上記3つの危険度
（災害時の避難や消火・救助等の活動のしやすさ（困難さ）を考慮した危険性）

なお、地域危険度はそれぞれの危険度について、町丁目ごとの危険性の度合いを5つのランクに分けて、以下のように相対的に評価しています。



（注）危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がさらに向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。

■地上部街路周辺での調査結果

地上部街路周辺の調査結果としては、建物倒壊危険度は低くなっていますが、火災危険度が高くなっています。

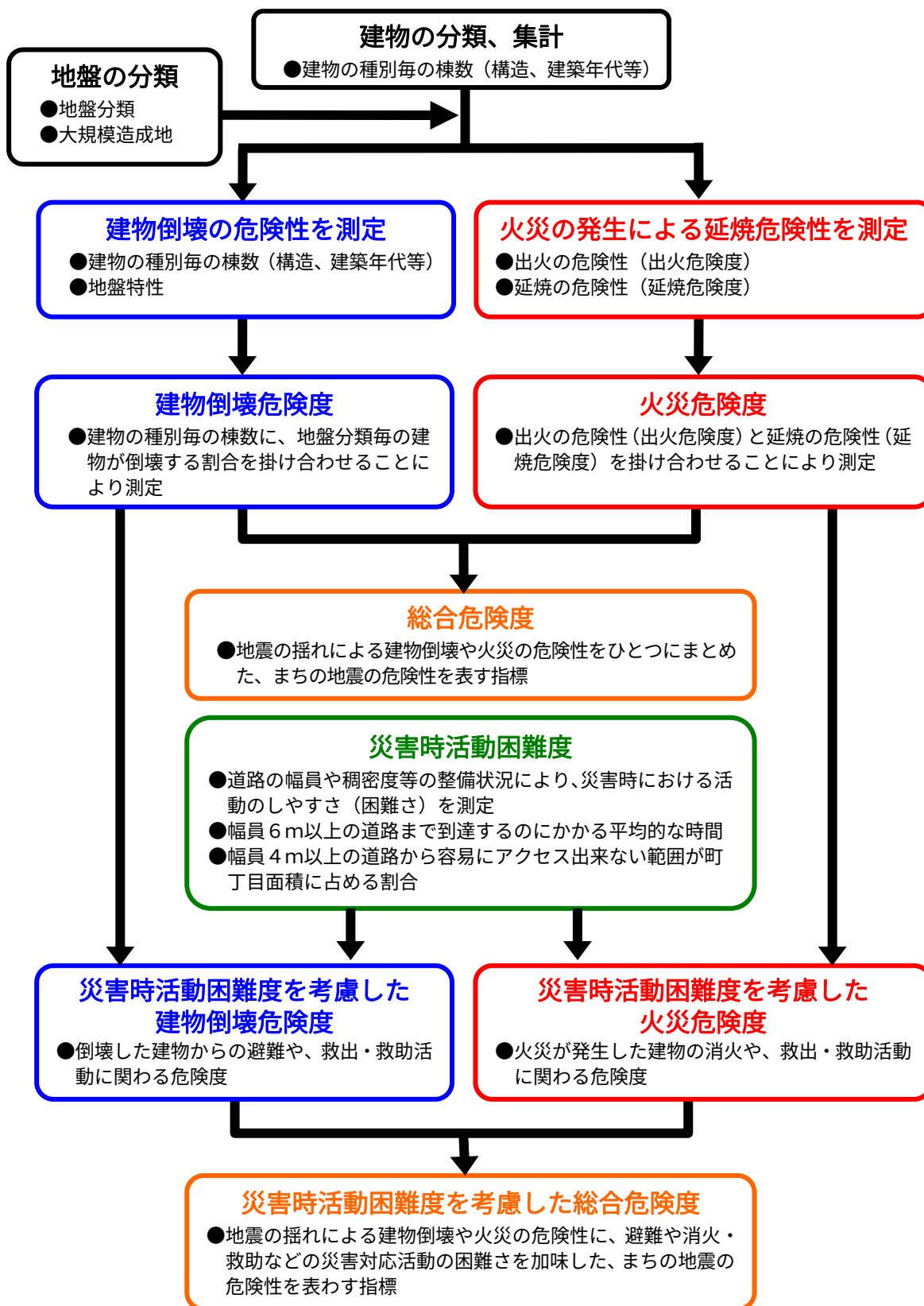
また、今回新たな指標として加えられた災害活動困難度が高く、これを考慮した建物倒壊危険度、火災危険度、総合危険度は高くなっています。



防災

地域的な視点 地域危険度

■地域危険度の測定フロー





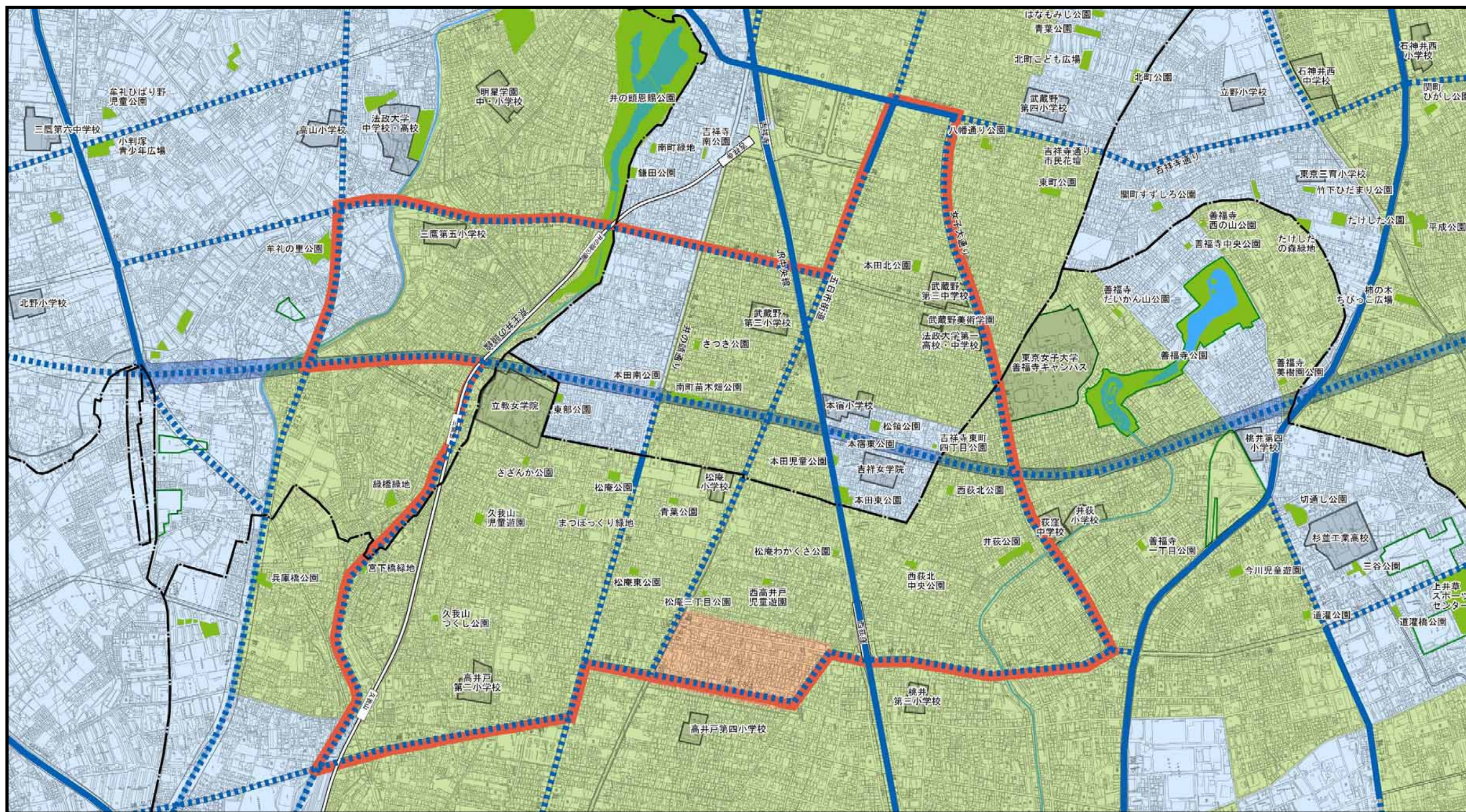
防災

地域的な視点 地域危険度

[建物倒壊危険度]

■本資料の平面図の注意点（P3～P9）

- ・平面図は都市計画上の権利制限の範囲、用地取得の区域を示すものではありません。
- ・平面図に示している都市計画線は建築確認や土地取引等に伴う都市計画道路の境域確認に用いることはできません。
- ・平面図の地形図は、航空写真に基づいて作成したものであり、多少の誤差や現在の建物の立地状況と合致していない点があります。



凡例
地上部街路
延焼遮断帯
延焼遮断帯
(未形成の区間)
防災生活圏
(地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

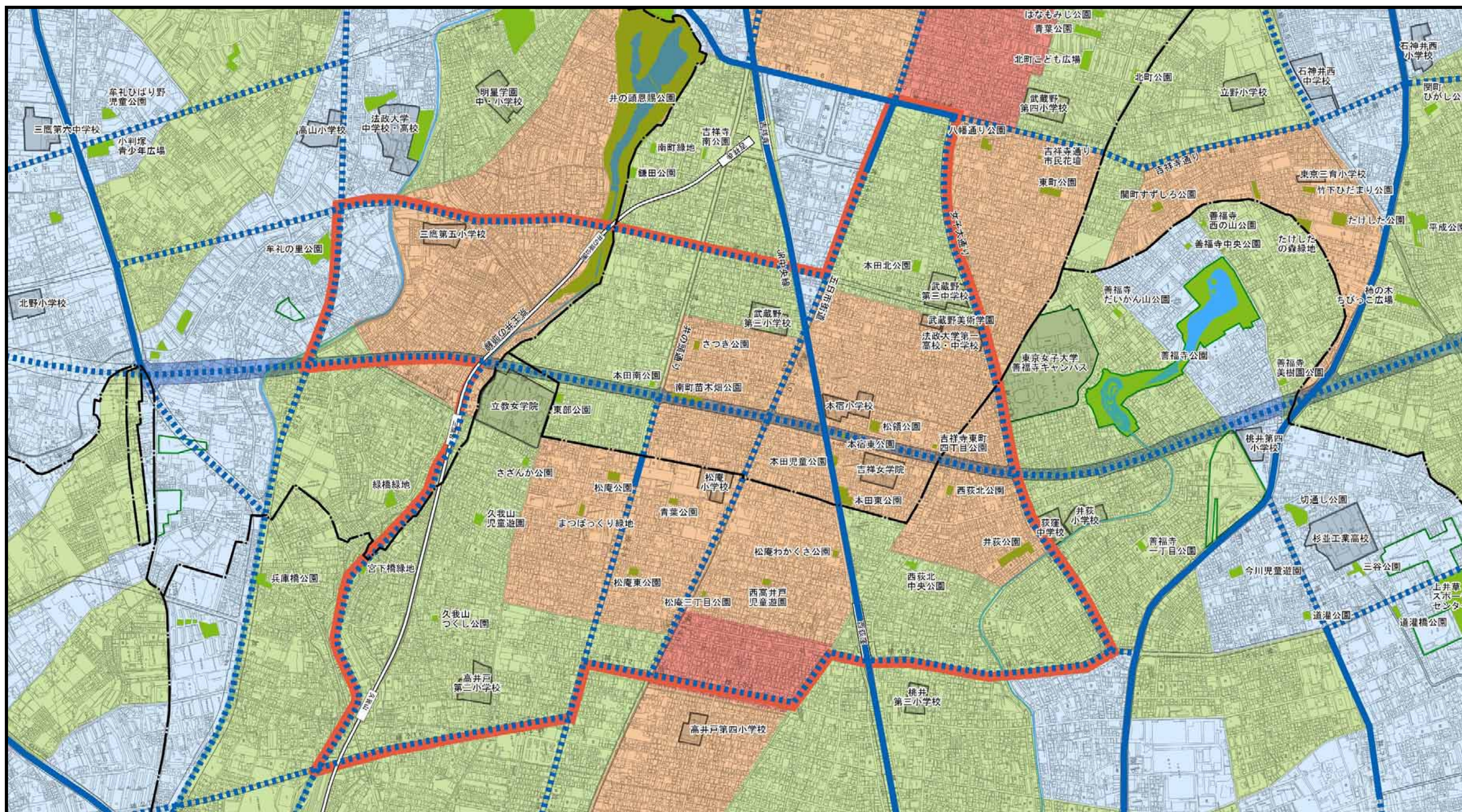
建物倒壊危険度ランク
5 4 3 2 1
高 ← → 低



防災

地域的な視点 地域危険度

[火災危険度]



凡例
地上部街路
延焼遮断帯
延焼遮断帯 (未形成の区間)
防災生活圏 (地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

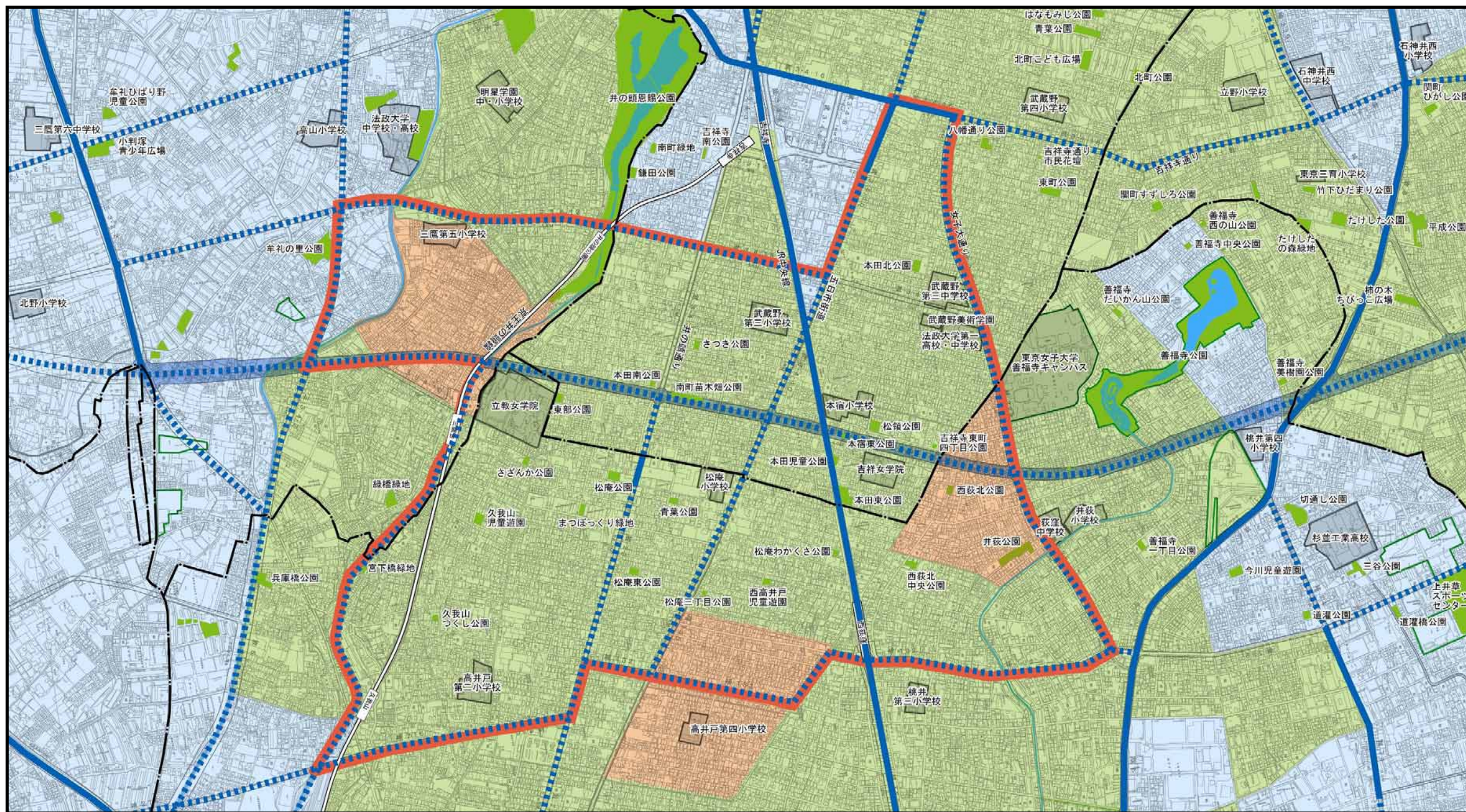
火災危険度ランク
5 4 3 2 1
高 ← → 低



防災

地域的な視点 地域危険度

[総合危険度]



凡例 地上部街路 延焼遮断帯 延焼遮断帯 (未形成の区間) 防災生活圏 (地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

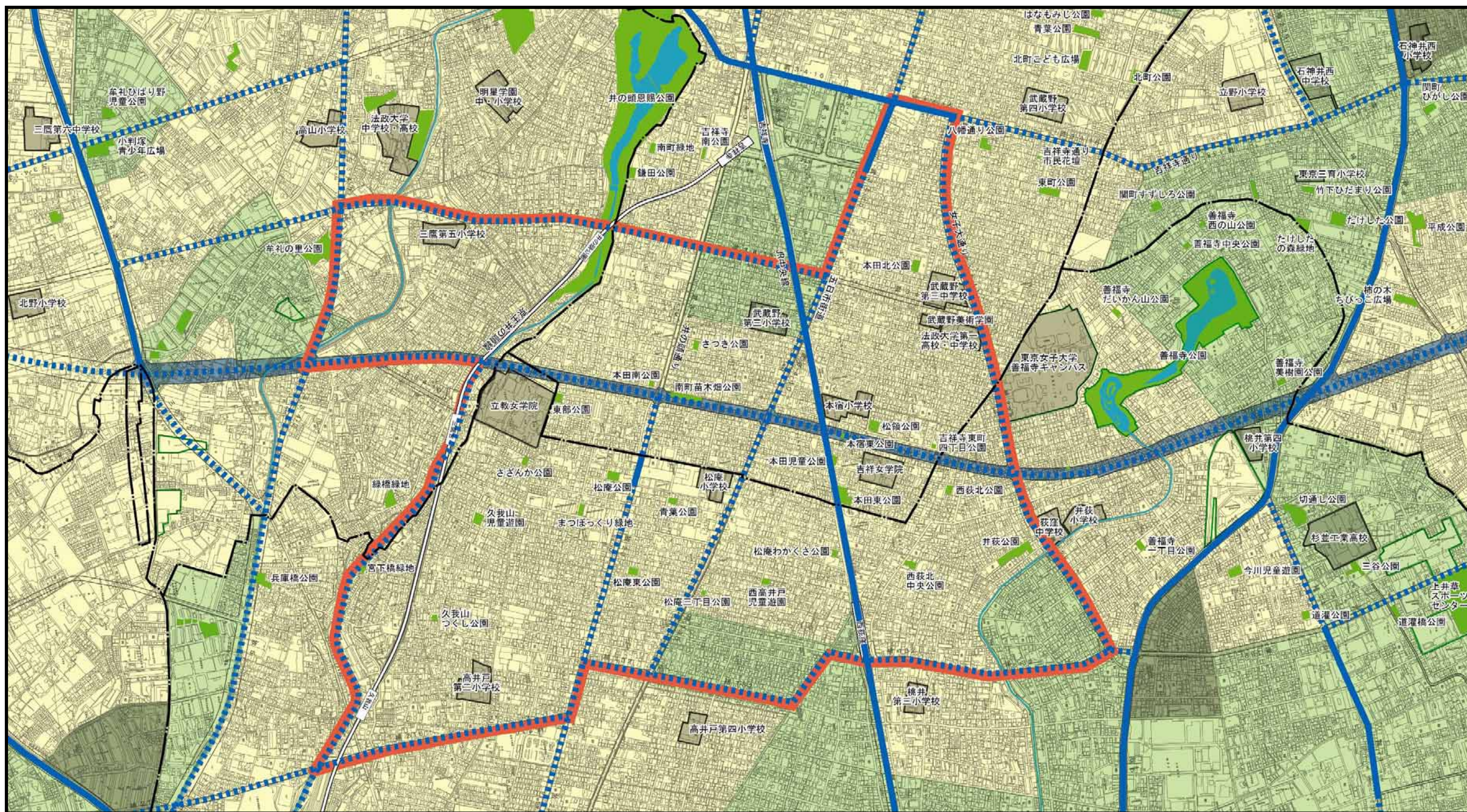
総合危険度ランク 5 4 3 2 1 高 ← → 低



防災

地域的な視点 地域危険度

【災害時活動困難度】



凡例 地上部街路 延焼遮断帯 延焼遮断帯 (未形成の区間) 防災生活圏 (地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

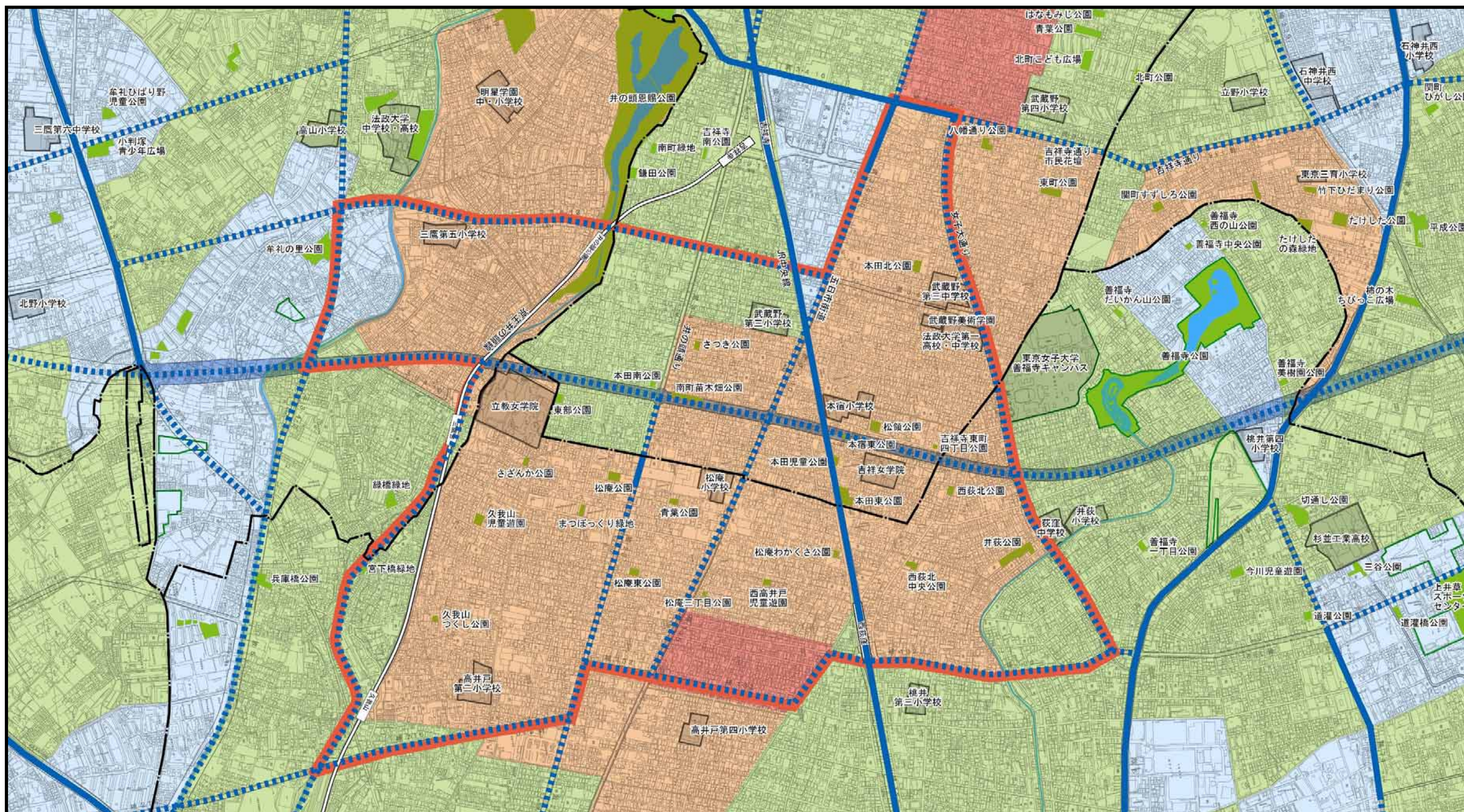
災害時活動困難度ランク 5 4 3 2 1 高 ← → 低



防災

地域的な視点 地域危険度

[災害時活動困難度を考慮した火災危険度]



凡例
地上部街路
延焼遮断帯
延焼遮断帯 (未形成の区間)
防災生活圈 (地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

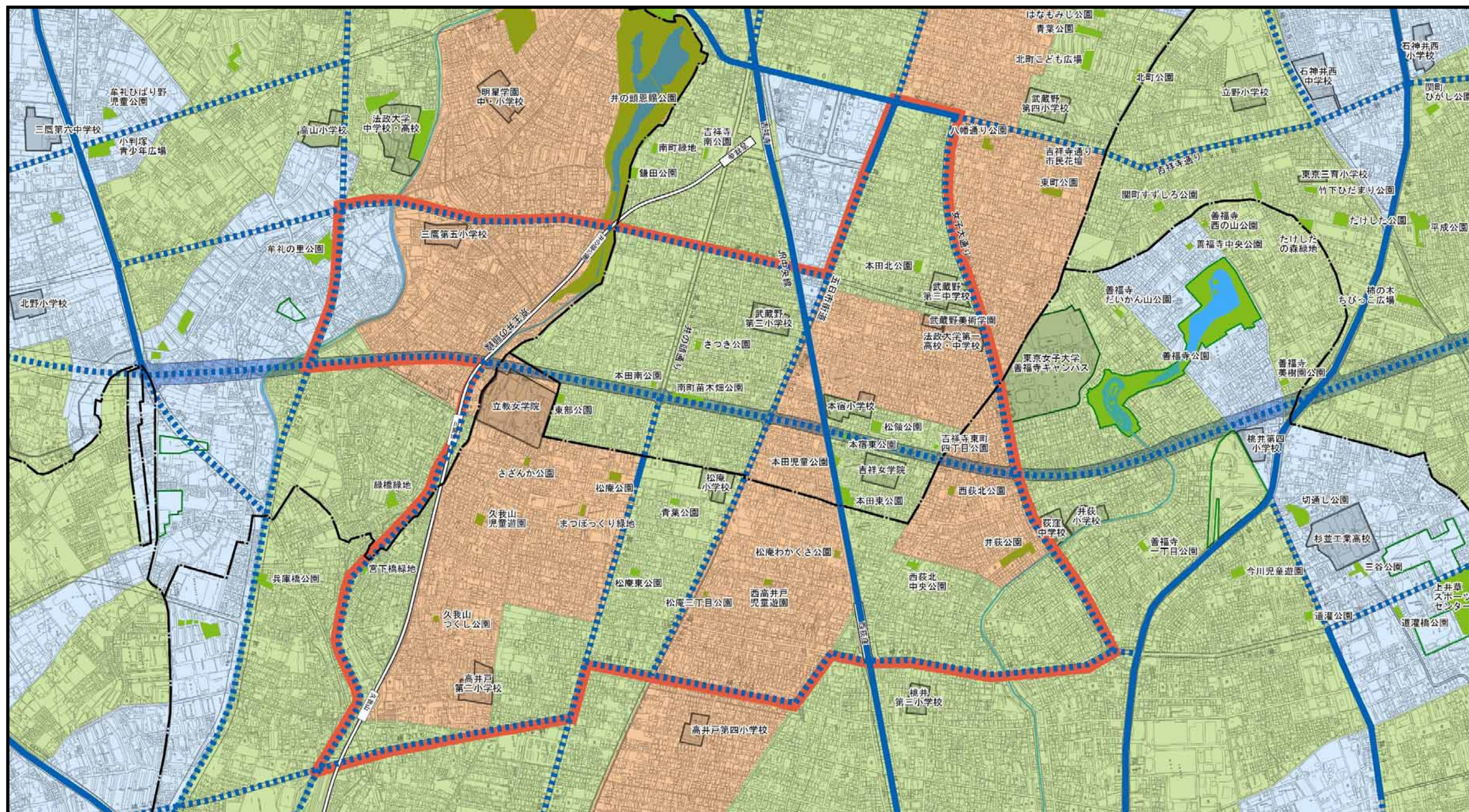
火災危険度ランク
5 4 3 2 1
高 ← → 低



防災

地域的な視点 地域危険度

[災害時活動困難度を考慮した総合危険度]



凡例
地上部街路
延焼遮断帯
延焼遮断帯 (未形成の区間)
防災生活圏 (地上部街路が延焼遮断帯となるもの)

総合危険度ランク
5 4 3 2 1
高 ← → 低